

皆様から送付していただいた「わがむらの隠れたお宝」を訪ねることにしました。
第1回は県の最北端に位置する栄村です（雪の降る前に行かねば！）。



栄村を訪ねて



～神秘的な池塘と広大な湿原～

栄村は県の最北端、千曲川が新潟県に流れ出す場所にあります。

県内で最も標高の低い地点（256m）があり、役場も県内で最も標高が低い位置にあります。村の中心部 JR 飯山線森宮野原駅には、1945年（昭和20年）に記録した7メートル85センチ、日本一の積雪量を示す標柱があります。

ご存じですか？「苗場山」というのは、新潟県の山だと思いましたが、なんと苗場山のほぼ3分の2は栄村に属するんです。山頂付近には、尾瀬に引けをとらぬ広大な湿原と、神秘的な池塘が点在しています。

北野天満温泉湧水

毎分約6トンの水が湧き出ている北野天満温泉湧水（「信州の名水・秘水」にも選ばれています）。近くに「北野天満宮」があり、命名の由来でもある。時節柄、受験生には必須アイテムとしてブレイクする可能性も大。

湧水地と同じ敷地内にある宿泊温泉施設北野天満温泉では、栄村産ソバ粉とこの水を使った手打ちそば（つなぎにオヤマボクチの繊維とフノリを使っている）が食べられます。地元のオバちゃんが打った平打ちの麺は、富倉ソバともへぎソバとも違う、その中間的な独特の食感でした。



中央の建物が湧水堂です



水が噴出しているところ

ユモトマユミ

秋山郷の小赤沢地区にある村指定文化財ユモトマユミの木（樹齢 200 年以上と推定、樹幹 2.42m、樹高 6.2m）です。



〔マユミ〕 檀；真弓と書く。

材質が強い上によくしなるため、古来より弓の材料として知られ、名前の由来になった。単なる弓の美称を真弓という。和紙の材料にもなったが、楮にとって代わられた。現在は印鑑や櫛の材料になっている。

新芽は山菜として利用される。天ぷらやおひたしなどに向く。

秋山郷のユモトマユミには、悲しい伝説があるそうです。

天明三年、浅間山が大爆発して、秋山郷にも火山灰が降り注ぎました。その年は冷夏で、村では作物が全く獲れませんでした。人々は草や木の根で何とか飢えをしのいでいました。ところが不思議なことに、ほかの木は芽も出さないのにご神木のマユミの木だけは青々と葉を繁らせて、村人はその葉を分かち合ってどうにか生きながらえていました。秋が近くなってだんだん葉が少なくなると、村人はお互い譲り合ってもその葉を採るものはなくなり、ついにみな飢えて死んでしまいました。大きな木だけが今も残っています。

福原総本家旧宅

小赤沢地区にある福原総本家旧宅（江戸時代中期頃の建物）、

豪雪地の厳しさが仕上げた堅固な造りとなっています。しかし、居住していないのでカヤ草の傷みが進み、一週間に一度、ボランティアの協力で風通しをしているそうです。文化財保護には、手間と時間が必要です。

